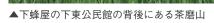
バス停からの

あい愛バス



成17)年、当時の美濃加茂市長・川合良樹氏 柿が主題の句です。碑の建立は2005(平 た。魯九が見た蜂屋柿をめぐる光景は今もこ が現代風の伸びやかな筆致で書き表しまし 美濃派の俳句集『藪の華』に載っている蜂屋

句作に遊んだ江戸時代の俳人の姿を想像し

つつ今の景色を見歩くのも、また一興です。

の地に根付いています。

▲鳥居脇の魯九の句碑

くおり、孤耕庵には高名な俳人も訪れました。 と呼ばれた内藤丈艸に師事します。元禄時代 耕庵という庵を建てた地と伝えられています。 磨山は、江戸時代に生きた下蜂屋の出身の俳 の蜂屋には魯九をはじめ俳句を志す人々が多 手ほどきを受け、松尾芭蕉の門人で蕉門十哲 の兼松嘯風(1654~1706年)に俳諧の 社の鳥居の脇には、魯九の句碑があります。 人・堀部魯九(生年不明、1750年没)が孤 蜂屋町下蜂屋の下東公民館の背後にある茶 ここから西方へ少し離れた所にある天神神 魯九は深田村(現深田町)に住んでいた俳人

「ちらちらと 粉のうく柿や 日の盛り」



今回乗車したバス

行き:フルーツ蜂屋線 左回り5便

帰り:フルーツ蜂屋線 右回り6便

13時2分 下東公民館 景色を散策し、バス通 ら裏通りへ出て自然や 神神社の鳥居の東に立 5分ほど西へ歩く。天 を見上げ、バス通りを 下車後、目前の茶磨山 つ碑と神社を見学した 美濃太田駅北口

14時5分 下東公民館 美濃太田駅北口

蜂屋の俳人・堀部魯九をめぐる旅

「下東公民館(フルーツ蜂屋線)」から